

<ポイント版> ぎふ経済レポート（令和 7 年 9 月分）

【製造業】

○ 製造業は、7 月の鉱工業生産指数は前月比 5.2 % 上昇となった。ヒアリングでは、昨年度の値上げ分が売上に計上されたため増益となり、引き続き緩やかな上昇傾向にあるとの声が聞かれる一方で、中国向けの出荷減少が続いていることにより、10~11 月は更に売上を落とすとの声が聞かれた。

○ 地場産業は、7 月の鉱工業生産指数は、食料品、木材・木製品、繊維工業、家具で下降した。ヒアリングでは、国内需要は減りつつあるが、インバウンド需要の高まりや海外輸出の増加が続き、売上としてはほぼ横ばいとの声が聞かれる一方で、小売店が少なくなってきたことから卸先が減り、売上が減少していることに加え、円安の影響で原材料が高騰し利益を圧迫しているとの声が聞かれた。

【設備投資】

○ 設備投資は、8 月の全国の金属工作機械受注額は、前年同月比 8.1 % 増加となった。ヒアリングでは、コロナ期に先送りした各種保守や機材更新について待ったなしとなっているものが多く、限られた予算の中でどこまで出来るのかが課題との声が聞かれた。

【個人消費】

○ 個人消費は、8 月の販売額は、全体で前年同月比 0.1 % 増加となった。ヒアリングでは、飲料・飲食店、小売の値上げが続いているが、転嫁が十分でなく、収益が伸び悩んでいるとの声や、9 月になっても引き続き猛暑の影響で来場者が激減しており、秋分の日以降は気温が下がり観光客が見られるものの動きが鈍いとの声が聞かれた。

【観光】

○ 宿泊者数は、前年同月と比較しマイナスになったものの、コロナ前の約 9 割まで戻っている。宿泊施設からのヒアリングでは、人手不足に苦慮しているとの声が多くあり、外国人人材を活用する施設もあった。

【資金繰り】

○ 8 月の制度融資実績は金額で 13 ヶ月連続で減少となった。金利上昇局面であるが、米国関税措置やアメリカの利下げなどの影響で、若干以前より利上げについてトーンダウンしているような印象も受けるとの声が聞かれた。

【雇用】

○ 8 月の有効求人倍率は 1.44 倍と前月比 ▲ 0.03 ポイントとなった。ヒアリングでは、採用面については、大学卒の人材については、毎年厳しくなっている状況で、内定は出すものの入社してもらえるまでには至らないことが多いとの声が聞かれた。待遇面については、高校卒業の新入社員の給料を 4 月から 5 % 上げたのだが、今回の賃上げでパートとの差があまりない状態になるので、また 5 % 程度賃上げしなければならないのではないかと考えているとの声が聞かれた。

【景気動向】

7 月の景気動向指数（一致指数）は前月比 2.0 ポイント上昇、8 月の中小企業の景況感は同 ▲ 4.0 ポイントとなった。